

授業科目名	教育実習		担当教員名	三上 聡子 石村 万寿美
必修/選択	必修	開講学年・学期	1年 期間 (年間開講数 2講座)	
科目区分	教職・保育に関する科目	単位数	4単位 (160時間)	
施行規則に定める科目区分等	教育実践に関する科目	授業方法/担当形態	実習 / オムニバス	
		特記事項	※実務経験のある教員等による授業 幼稚園副総園長、幼稚園教諭として長年にわたる実務経験を活かし、幼児教育の現場での実例を多く取り上げて授業を行っている。/幼稚園園長、幼稚園教諭として長年にわたる実務経験を活かし、具体的な実践記録を紹介して授業を行っている。	
授業の概要及び全体目標	幼稚園教育の意義と目標を理解して教育実習への意欲を高め、実習に臨むために必要なことを学ぶ。			
到達目標	<p>(1)教育実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高める。</p> <p>①幼稚園教育の根本を理解する。 ②教育実習生としてのマナーや遵守すべき義務等について理解する。 ③責任を自覚した上で意欲的に教育実習に参加することができる。 ④期日を守り、提出物や実習の手続きについて見通しをもって自ら進めることができる。</p> <p>(2)幼児の発達を理解して保育の様子イメージする。観察の視点と記録のとり方を理解する。</p> <p>①満3歳から5歳の学年の子どもの発達段階を理解する。 ②幼児の姿や幼児と自分の関わりをイメージし、適切な指導や必要に応じた援助を考えることができる。 ③クラス担任の役割と職務内容を理解する。 ④保育の記録について、その意義を理解する。指導教員等の実施する保育を保育の流れやつながりを理解しながら観察し、事実即して記録することができる。</p> <p>(3)保育での指導・援助及びクラス経営について理解する。</p> <p>①教育実習園の教育方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解する。 ②幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成することができる。 ③保育に必要な基礎的技術(話法・保育形態・保育展開・環境構成など)を実地に即して身に付けることができるように準備をすることができる。 ④幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面での情報機器の活用について理解する。</p> <p>(4)観察及び参加する中で幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた園経営及び教育活動の特色を理解する。</p> <p>①幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 ②指導教員による保育を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。 ③クラス担任の補助的な役割を担うことができる。 ④指導案を立案し、それに基づいて保育を展開しながら幼児の様子や状況に応じて臨機応変に対応することができる。</p> <p>(5)教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解し、幼稚園教諭の免許を取るにあたって自己の課題を明確にする。</p> <p>①教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解する。 ②自己の課題を明確にして、課題克服のために見通しをもって努力することができる。</p> <p>(1)事前指導・事後指導に関する事項：事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。 ①教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 ②教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。</p> <p>(2)観察及び参加並びに教育実習校の理解に関する事項：幼児、児童および生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校(園)の幼児、児童又は生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。</p> <p>①幼児、児童又は生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 ②指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。 ③教育実習校(園)の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。 ④学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。</p> <p>(3)保育内容の指導及び学級経営に関する事項 ※幼稚園教諭：大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身に付ける。</p> <p>①幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。 ②保育に必要な基礎的技術(話法・保育形態・保育展開・環境構成など)を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面での情報機器を活用することができる。 ③学級担任の役割と職務内容を實地に即して理解している。 ④様々な活動の場面で適切に幼児と関わる事ができる。</p>			
テキスト	「実習ハンドブック」大阪教育福祉専門学校編著			
参考書・参考資料等	「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」(株式会社チャイルド本社、「月刊 保育とカリキュラム」(ひかりのくに)			
成績評価の方法	平常の受講態度や発表、課題(提出物)、実習園の評価をもとに可否を判定する。			
授業計画	授業の内容			到達目標番号
第1回	実習段階「導入・基礎段階」 指導実習の留意事項 (1)幼稚園現場を理解する (2)園児の生活の流れを理解する (3)保育者に学ぶ (4)短時間の指導実習 (5)短時間の指導実習のプロセス (6)実習の指導案 ○実施時期・期間：1年 11月・10日間 ○対象児：3歳児			(3)-①④ (4)-①②③
第2回	実習段階「総合段階」 指導実習の配慮事項 (1)長時間の指導実習 (5)日の指導計画(日案)作成の留意点 (6)指導の展開 ○実施時期・期間：2年 6月・10日間 ○対象児：3～5歳児			(3)-①②③④ (4)-①②③④
定期試験	定期試験は実施しない			